



ウグイス色ってどんな色？

副校長 澤 勉

早朝の学校では、多くの野鳥が誰もいない校庭や校舎付近で遊んでいます。一年を通して騒いでいるカラス、緑が豊かな時期にはプールで遊ぶカモ、そして今は、職員室前の夏ミカンの木に、仲睦まじいメジロのつがいが見られます。

眼の縁が白いため「メジロ」と名付けられたこの鳥ですが、体の色は一般的にウグイス色と呼ばれています。しかし「ホーホケキョ」とさえずるウグイスの体色は灰色です。なぜなのでしょう。花札の「梅に鶯」の鳥の色や山手線は「メジロ色」ではなく「ウグイス色」、青エンドウで作った餡も「うぐいす餡」です。



メジロは柔らかな色調の黄緑の羽をしており、性格も活発で比較的慣れやすく、かつては飼育されることも多かったそうです。花樹の蜜を好むため、春先には庭に来て「チー、チー」とさえずりながら梅や椿の蜜を吸い、たまに花を散らしたりするのでよく目に付きます。

一方、ウグイスは地味な灰がかった緑褐色の羽で非常に臆病な性質。人里の奥や藪の中で生息しており、なかなか姿を確認できません。オスが「ホーホケキョ」と形容される朗々とした声で鳴くことは、皆様もご存じの通りです。

春の柔らかな青空の下、メジロが遊ぶ梅の枝のその奥から「ホーホケキョ」の歌が聞こえたら、声の持ち主を小さなかわいらしい黄緑色の小鳥だと思ふことは当然でしょう。そして、その美点だけが結びつけられ、イメージが一人歩きしてしまったのかもしれない。

さて、イメージの一人歩きですが、私たちの周りにもまだまだあふれている気がします。情報が多くなった現在でも、「〇〇だから…」というフレーズは未だに多く耳にします。そのような世界を生き抜く子どもたちを育てるためにつけたい力は二つあると私は考えます。一つは「多種多様な情報を選び、活用する力」、そしてもう一つは「物事を多面的に見る力」ではないでしょうか。

「多種多様な情報を選び、活用する力」については、ICTという切り口でマスコミ等に取り上げられております。しかし「物事を多面的に見る力」は、自分と物事、自分と他の人を客観的に見ることができる能力（メタ認知能力といわれるものです。）が必要になります。自分を客観視することは大変難しいのですが、それを実現するためには、まずは学習内容を「自分事」とすること、そして友だちの思いや願いも、自分と同じように大切にすることができるような学びを続けていくことが大切です。そんな学びを繰り返して続けることが、自分や友だちの営みを大空の上から別の自分が見つめるような、「物事を多面的に見る力」を育てていきます。

春に向かい、小鳥たちのとまっている小枝の冬芽も少しずつ大きくなってきました。健康に留意し、新しい春を迎える準備をしていただけたらと思います。